
-東方神樂憶-

くう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

- 東方神樂憶 -

【NZコード】

N3548T

【作者名】

くう

【あらすじ】

とても静かな日であった。夏には珍しくやけに涼しい風、風が吹き抜けて行く度に身体が癒されとても心地よかつた
集いし風は噂を作り、流れし噂は噂を呼んだ

守矢の神社に外の世界の住人が現れた、と

退屈を覚えた幻想の住人は刺激を求め、物珍しい外来人見たさに日頃の疲れも忘れたかのように守矢の神社へと足を運んだ

『面倒くさい事にならないと良いんだけど……』

東の博麗の巫女はため息混じりにそう呟いた

運命を見る悪魔は夢を見た

全てが崩れさる夢を見た

全てが消え行く夢を見た

役目を終えたはずの歯車が再び鏽びた金属音を立てゆっくりと時を
刻み出す

愛を知らない少年と奇跡を起こす少女
神を感じた人間と人間を感じた神様

今宵、小さき太陽が奇跡を照らし出す。

執筆開始 2010/6/19
リメイク開始 2011/05/17

- プロローグ -

- 紅魔館 -

今日は静かな夜であった。

虫の鳴き声も聞こえず、ましてや生き物の鳴き声すら聞こえていた。なかつた。

風はとうに止んでおり、何者も邪魔する事の無い静かな夜。

一時の静寂な空間。

閑散とした何も聞こえない景色の中で、紅魔館……その名に恥じぬような赤い館がただ堂々とそびえ立っていた。

「咲夜」

主、従者の名前を呼ぶ。

「はい、何で御座いましょうかお嬢様」

従者、主の問い合わせに答える。

「またあの夢よ……」

「またで……」¹とこますか……」

主は起きながらひそかに言つた。

また、そつ……またなのだ。

従者の話によると、この主はここ最近悪夢につなされていぬといふ。

どんな夢なのかはつきりとはわかつていない。
と、言うよりも主が教えてくれないといふ。

ただの意地悪なのか、それとも違うもつと深い何かなのか……
それは、本人にしかわからない。

「お嬢様」

「何、咲夜？」

深入りしまいとは思つていたが、やはり気になる物は気になる。

それに、ただの悪夢ならまだ良いのだが毎日毎日、毎晩毎晩呪われ
ているかのようにその悪夢を見るといふ。

しかも、毎回主が震えるように起きシーツを汗で濡らしてい
う。

「そもそも、私にも教えて頂けないでしょうか？　その夢の内容を
……」

正直、聞くのは怖かつたであろう。

だが、主がうなされているというこの事態。

従者が動かないわけにはいかない、主には全力を持って貰へば、それが従者の役目。

「本当に聞きたい？」咲夜

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3548t/>

-東方神樂憶-

2011年10月9日02時45分発行